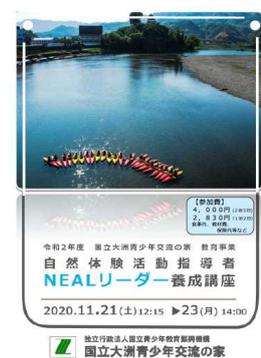


令和2年度 教育事業（指導者等養成研修事業）

# 自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成講座（4年目）

## 1 事業概要

国立大洲青少年交流の家や大洲市を流れる肱川で、講義や演習を受けたり、指導者としての指導法・技術の習得などを学んだりした。例年よりカヌーツーリングの時間を多く設定し、自然の中で参加者が体験しながら指導者の視点、参加者の視点をもって受講できるように設定した。



## 2 事業の目的（ねらい）

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEALリーダー）を育成する。

## 3 企画のポイント

法人ボランティア養成講座との単位読み替えが可能な部分を前半に設定し、法人ボランティアの資格をすでに取得している参加者は、2日目からの1泊2日の参加で認定試験を受けられるように企画した。また肱川での実習を設定することにより、参加者それぞれの活動フィールドは違うが、指導者の立場になった時に、自分であればどのように対応するかなどを想定しながら多くのことを考え、学びを深めることができると考えられる。

- 4 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家  
5 後 援 大洲市教育委員会  
6 期 日 令和2年11月21日（土）～11月23日（月）  
7 場 所 国立大洲青少年交流の家・肱川  
8 対 象 国公立・財団等の青少年教育施設職員、青少年教育に係る指導員やリーダー  
都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員  
教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18歳以上）  
9 参加人数 27名（定員20名）

10 参加費 【2泊3日参加者】4,000円 【1泊2日参加者】2,830円

- 11 講 師 東京海洋大学 学術研究院 教授 千足 耕一 氏  
( 講義・演習 . . . . . )  
東京海洋大学 蓬郷 尚代 氏  
国立大洲青少年交流の家  
事業推進係 係長 大藤 毅 ( ガイダンス . . . )  
NEAL主任講師  
国立大洲青少年交流の家 職員 ( 講義・演習 )

## 12 日 程

### 【1日目：11/21】

- 12：15～ 集合・受付（参加者：2泊3日）
- 12：30～ 開講式・ガイダンス 0.5H
- 13：00～ 講義 「青少年教育における体験活動」1.5H
- 14：30～ 講義・演習 「自然体験活動の技術（野外炊飯による夕食含む）」4.0H

### 【2日目：11/22】

- 8：45～ 集合・受付（参加者：1泊2日）
- 9：00～ 演習 「自然体験活動の安全管理」3.0H
- 12：30～ ガイダンス 0.5H
- 13：00～ 講義・演習 「自然体験活動の指導」1.5H
- 14：30～ 講義・演習 「自然体験活動の技術」2.0H
- 18：00～ 講義 「対象者理解」1.5H

### 【3日目：11/23】

- 9：00～ 講義・演習 「自然体験活動の特質」3.0H
- 13：30～ 認定試験 0.5H・ふりかえり・閉講式

## 13 活動内容

### 【1日目】

開講式の後は、主任講師がガイダンスでNEALリーダー養成講座の大まかな流れや仕組みについて説明を行った。ガイダンス後は「青少年教育における体験活動」として、千足氏による講義があった。その後は、主任講師からアイスブレイクの説明があり、参加者が打ち解ける様子が見られた。「自然体験活動の技術」では、KYT（危険予知トレーニング）をグループで行った。野外炊飯をしている様子が描かれたイラストを見て、危険だと思う部分を各自が考え、それをグループで共有した。たくさんの意見が交わされ、充実した協議となった。野外炊飯ではグループでカレーを作った。職員から調理方法について詳しい説明をせず、調理器具や食材、場所の設定などを伝え、指導者の視点を持ち、安全を意識しながらどのように進めると良いかグループで話し合い、調理を進めた。メタルマッチを使って火を起すグループも見られた。



### 【2日目】

「自然体験活動の安全管理」では、千足氏によるライフジャケットの正しい着用の仕方、スローバッグの使用方法について説明があった。その後は、カヌーに乗り、カヌーの基礎技術獲得を目指した。「自然体験活動の指導」「自然体験活動の技術」では、カヌー艇庫より少し上流の場所からショートツーリングを行った。途中には沈下橋もあり、頭上すぐ近くにある橋の様子を眺めながら通過していた。また、参加者の家族が河原から声を掛け、水上と河原で楽しそうに会話をしている姿も見られた。夕食・入浴後には、千足氏による「対象者理解」についての講義があり、一日のふりかえりを参加者で共有したり、明日のコースの確認を行ったりした。



### 【3日目】

「自然体験活動の特質」では、肱川の中流域から約9.5 kmのロングツーリングを行った。途中には瀬（流れの激しい部分）や瀬張り（落ち鮎を捕る仕掛け）がたくさんあり、転覆する参加者もいたが、職員やカヌー経験が豊富な参加者が対応し、カヌーの水抜きをしてすぐに復帰することができた。また、野鳥や魚などを見つけたり、河原の地形や景色を眺めたりして、多くの自然体験を通じて、様々な自然を捉える視点を身に付けることができた。



## 1.4 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

\*満足：78%

\*やや満足：22%

\*やや不満：0%

\*不満：0%

自分だけが楽しむ自然体験活動（カヌー）でなく、指導する立場での必要なこと、注意する点など多くのことが学べました。関係された先生方に感謝しています。

カヌー初心者の私でしたが、安全に楽しく3日間を終えることができました。勤務先で研修の成果を生かして指導者として活躍し、同僚にも広めていけるようにまとめたいと思います。個人的にもカヌーが欲しくなりました。

大洲でしかできない活動や内容でとても良い経験になった。

とてもとても大満足です。ありがとうございました。

職員及び講師の皆様がとても親切で、3日間ストレスなく楽しく受講することができました。ありがとうございました。



## 1.5 事業の成果

参加者の中には法人ボランティアもいたが、「全日程参加したい。」と要望があり、全員が2泊3日で参加した。今回は例年よりもカヌーツーリングの時間を多く設けた。アンケートからも読み取れるが、参加者は、肱川の緩やかな流れの中で自然を堪能し、講義・演習を通して、指導者の立場になった時に、どのように対応すればよいか考えることもできたようである。

## 1.6 事業の課題

大洲のフィールドを生かした「カヌー」を使った活動は参加者に非常に好評ではあるが、天候に左右される部分がある。また、所内には参加者用のウェットスーツが無く、若狭湾青少年自然の家から借用した。今後天候に左右されない代替案やウェットスーツの確保など、検討する必要性を感じている。

（担当：主任企画指導専門職 武藤 健太郎）